



ボッシュ、クライメートニュートラル技術に数十億ユーロ投資 成功裏に収めた 2021 年度 - 不確実性とコスト増が通期見 通しの懸念材料に

2022 年 5 月 4 日
PI11464 RB Ka/af

- ▶ 2021 年の売上高: 787 億ユーロ / EBIT(支払金利前税引前利益): 32 億ユーロ
- ▶ 140 億ユーロ規模の水電解水素製造市場に参入 - ボッシュは 2030 年までに新事業分野に約 5 億ユーロを投資
- ▶ e モビリティの受注高が初めて 100 億ユーロを突破
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長 シュテファン・ハルトウング:「電動化はクライメートニュートラルへの最短ルートです」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 財務担当取締役 マルクス・フォーシュナー:「ボッシュは 2021 年の課題をうまく乗り越えましたが、収益に対する圧力は強まっています」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 人事担当取締役 フィリズ・アルブレヒト:「変化の時代における社会的責任とは、一人でも多くの従業員を新しい事業分野へ導くことです」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会副会長 クリスティアン・フィッシャー:「ボッシュは 2025 年までにヒートポンプ事業に 3 億ユーロを投資します」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 産業機器テクノロジー事業セクター担当取締役 ロルフ・ナヨルク:「エネルギー管理のネットワーク化は、工場にエネルギーの効率化をもたらします」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー兼モビリティソリューションズ事業セクター統括部門長 マルクス・ハイン:「ボッシュは電動パワートレインのトップサプライヤーです」

シュトゥットガルト/レニンゲン - 厳しい市場環境にもかかわらず、ボッシュは 2021 年度に売上高と利益を大きく伸ばしました。グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュの売上高は前年比 10.1%増の 787 億ユーロ、支払金利前税引前の営業利益 (EBIT) は 50%以上増加して 32 億ユーロに達しました。支払金利前税引前利益率は前年の 2.8%に対し、4%に改善しました。「2021 年を成功裏に収めたことが、今年の厳しい環境も乗り越えられるという自信に繋がっています」と、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長のシュテファン・ハルトウングは、年次記者会見にて述べています。

ウクライナにおける戦争は著しく大きな不確実性のひとつであり、あらゆる面に影響が及んでいます。ポッシュは従業員に対する責任を非常に重く受け止めると同時に、攻撃が始まった当初から、特に避難される方々の苦難を和らげるための人道支援を展開しています。ハルトウングは、「私たちは戦禍の地にいる方々に想いを寄せ、どれほど不安に過ごされているか思案しています」と述べ、戦争は政治的紛争を解決する手段ではないと指摘しています。現在の状況は、政策立案者や社会が化石燃料への依存度を下げ、新エネルギー源の開発を強力に推進しなければならないという圧力を浮き彫りにしていると、ハルトウングは考えています。加えて、ポッシュ・グループは電動化や水素といったクライメートニュートラルな技術に3年間で約30億ユーロを投資することを明らかにしました。

ハルトウングは、この戦争が気候変動対策に与える影響として、短期的にはCO₂排出量削減のペースが落ちるものの、長期的には特にヨーロッパで技術変革が加速すると見ています。「政策立案者はこれをきっかけに、建物の省エネ改修に向けたインセンティブ提供や、再生可能エネルギー発電の大幅拡大などに、より強い決意を持って取り組むことが出来るでしょう」とハルトウングは述べています。ハルトウングは、グリーン電力の利用を前提条件に、電動化はクライメートニュートラルへの最短ルートであると考えています。そのためにポッシュは[サステイナブルなモビリティ](#)を推進しており、2021年にポッシュのeモビリティ関連の受注額は初めて100億ユーロを突破しています。一方で、ハルトウングは水素の必要性も強調し、「産業政策の役割は、すべての経済セクターで水素を利用できるようにすることです」と主張しています。「電気ベースのソリューションが先行していますが、水素ベースのソリューションをさらに加速させる必要があります。地球上でサステイナブルな生活を実現するためには、両方が必要です」

ハルトウングは同時に、今後3年間でさらに100億ユーロを投じてビジネスのデジタルイゼーションを推進することを発表し、「デジタルイゼーションはサステナビリティの実現において特別な役割を担っており、当社のソリューションはこれを前提としています」と述べています。[ポッシュのポートフォリオ](#)における例としては、スマートホームエネルギーマネジメントシステムやコネクテッドマニュファクチャリングエネルギープラットフォームなどが挙げられます。

2022年の展望: 厳しい環境で依然として高い不確実性

ポッシュ・グループは、第1四半期に売上高を前年同期から5.2%伸ばしました。「2022年は堅実なスタートを切り、これまでのところ、売上成長率は事業報告で予想した6%を上回ると見込んでいます」と、ロバート・ポッシュ GmbH 取締役会財務担当取締役のマルクス・フォーシュナーは述べています。「しかし、今年度のより正確な通期予想は、不確実性が大きいため困難な状況です」。フォーシュナーによると、売上高は増加が見込まれるものの、支払金利前税引前利益率は前年並みという目標には及ばず、3%から4%の間となる見通しです。「特にエネルギー、原材料、物流コストの上昇が業績への負担となっています」。特にモビリティソリューションズ事業セクターでは、コスト圧力が現在非常に高く、一部の原材料の価格は2020年以降約3倍に高騰しています。「価格の高止まりと非常に不安定な市場に適応していかなくてはなりません」と

フォーシュナーは指摘します。「自動車メーカーだけでなく、サプライヤーも値上げ分の価格転嫁に頼らざるを得ません」

こうした状況を背景に、ポッシュは世界経済の見通しを大幅に修正し、年初には4%から4.25%の成長を見込んでいた今年の世界経済成長率を3.5%弱としました。自動車生産台数を前年比9%増の約8,800万台とする従来の予想も、達成は厳しいと見ています。その理由としてフォーシュナーは、中国での新型コロナウイルスの感染拡大と長引く半導体不足による新たな混乱を指摘しています。ただし全体として、フォーシュナーは楽観的な姿勢を崩していません。「ポッシュはこの困難な局面も乗り越えます。重要なのは、将来性のある製品と明確かつ長期的な戦略的方向性です。ポッシュは、そのどちらもしっかり備えています」

水電解:140億ユーロ規模の市場に参入

ポッシュは効果的な気候変動対策を実現するために、水電解装置のコンポーネント事業に参入します。ポッシュは2020年代末までに、この新事業分野に約5億ユーロを投資する計画で、その半分はすでに2025年に予定されている市場導入までに投じる計画です。ハルトウングは、「私たちは水素技術を開発するための幅広い基盤を有しており、欧州での水素製造を推進したいと考えています」と述べています。「水電解装置のコンポーネント市場は、2030年には全世界で約140億ユーロ規模になると予想しています」。ポッシュは水電解システムの中核となるスタックを供給し、パワーエレクトロニクス、センサー、コントロールユニットを組み合わせたスマートモジュールを構成します。水素製造用スタックは、早ければ2025年に量産が開始される予定です。

持続可能性:新エネルギー時代における社会的責任

ポッシュは欧州連合(EU)のグリーンディールを支持し、サステナビリティに特別な責務を負っていると考えています。ポッシュは2020年以降、世界40カ所の拠点を[カーボンニュートラル](#)を実現しており、カーボンニュートラルの質については予想以上に進展しています。ポッシュはすでに、2020年代末までに目指している節電量の3分の1を実現しています。「サステナビリティは一部で取り組むものではなく、すべての企業のコア事業の一部となる必要があります」と、ロバート・ポッシュ GmbH 取締役会メンバー兼人事労使関係担当ディレクターであるフィリズ・アルブレヒトは説明します。ポッシュの企業としての社会的責任は、経済、社会、環境という3つの要素が含まれています。「このトライアングルをバランスよく維持するのは容易なことではありません。私たちの社会的責任とは、変革の時代において、一人でも多くの従業員を新しい事業分野へ導くことだと考えています」。アルブレヒトが指摘するように、ポッシュはこれまで内燃機関システムを生産してきた拠点を中心に、クライメートニュートラル技術の開発を進めています。リスキリングプログラムと社内公募プラットフォームを通じて、パワートレイン事業部では既に1,400人の従業員が、ソフトウェアやeモビリティなどの分野で新たなポストに就いています。「年末までに、約2,300人の従業員がモビリティ用途および定置用燃料電池に従事することになりますが、そのほとんどが社内公募によるものです」とアルブレヒトは述べています。加えて、「これはポッシュによる変革です。ポッシュは今

年、世界中で1万人のソフトウェアエンジニアを新たに採用する意向です」と付け加えました。

サーモテクノロジー:ヒートポンプ事業に3億ユーロを投資

「CO₂排出量の3分の1以上は建物から発生しているため、自宅でも気候変動対策が必要になります」と述べるのは、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会副会長、消費財事業セクターおよびエネルギー・ビルディングテクノロジー事業セクター担当取締役のクリスティアン・フィッシャーです。「空調システムにおけるCO₂削減策としては、まずヒートポンプへの代替が考えられ、それもグリーン電力による駆動だと理想的です」。国際的にも、新しい建物に対応した基準を策定する動きが盛んになっています。たとえばドイツでは、2024年までに新しい空調システムの65%を再生可能エネルギーで賄うとしています。「そのため、ボッシュはヒートポンプ事業に2025年までに3億ユーロを追加投資する予定です」とフィッシャーは述べています。「市場は2025年までに年率15~20%成長していく見込みで、私たちは市場の2倍のスピードで成長することを目指します」。ボッシュは既存の建物にも貢献したいと考えており、空調システムの天然ガスから水素への切り替えを、水素対応ガスボイラーによって支えようとしています。さらに、ビルディングシステムを接続、統合することで、ボッシュは同時にサービスを通じてコンスタントに収益を上げるという目標にも近づいています。「ビルディングシステム事業では、すでに売上高の約半分をサービスが占めています」とフィッシャーは述べています。「私たちの戦略的目標である気候変動対策への貢献とサービス事業の拡大は、相互を補完する関係にあります」

産業機器テクノロジー:デジタイゼーションによるエネルギー効率化

工業生産の面では、ボッシュは工場におけるエネルギー効率とコスト効率のさらなる向上に取り組んでいます。「工業生産のデジタイゼーションは気候変動対策に貢献します」と述べるのは、ロバート・ボッシュ GmbH の産業機器テクノロジー担当取締役のロルフ・ナヨルクです。「エネルギー管理をネットワーク化することで、生産部門の年間エネルギー消費量を平均5%削減できています」。インダストリー4.0ポートフォリオの一部であるエネルギープラットフォームは、すでに80件の顧客プロジェクトと120カ所のボッシュ拠点で活用されています。同時に、ボッシュ・グループは産業機器テクノロジーで電動化にも注力している、とナヨルクは続けます。2030年には移動型作業機械の30%が電動化されると予想されています。これは、高電圧システムの市場規模がさらに15億ユーロ拡大することを意味します。ボッシュはまた、産業機器テクノロジーを通じて電気自動車(EV)走行もさらに推進したいと考えています。「VWとの[合同プロジェクト](#)で、欧州のバッテリーセル工場に設備を提供する会社の設立準備を進めています」とナヨルクは説明します。「私たちの共通の目標は、バッテリー生産の工業化においてコストとテクノロジーの両面で主導的な地位を確立することです」。バッテリーセルの生産技術の場合、2030年までに全世界で市場規模が累計で500億ユーロに達すると専門家は予想しています。

代替モビリティへの移行: バッテリーおよび燃料電池による電動化の促進

ポッシュは、EU のグリーンディールが道路交通の電動化を大きく後押しすることを期待しています。「すべての自動車メーカーが、成長を続ける電気自動車市場で可能な限り高いシェアを確保できるよう尽力しています」と、ロバート・ポッシュ GmbH 取締役会メンバーでモビリティソリューションズ事業セクター統括部門長を務めるマルクス・ハインは述べています。「ポッシュは、電動パワートレインのトップサプライヤーであると自負しています」。この分野における大きな技術的課題は、パワートレインをバッテリーも含めて適切な温度に保ち、快適な車内環境を実現することですが、インテリジェントな熱管理だけで、EV の航続距離を 25% 伸ばすことができる、とハインは述べています。そのためにポッシュは、フレキシブルサーマルユニット (FTU) を用いた事前統合型ソリューションを開発しました。この FTU を通じて、2020 年代末には 35 億ユーロの規模に達すると予想される市場を開拓しようとしています。燃料電池をベースにした e モビリティについては、年内にトラック向けの燃料電池パワートレインの量産を開始します。「バンベルクの拠点では、2025 年までに 1 ギガワット分の出力のスタックを生産したいと考えています」と、ハインは将来を見据えています。「2030 年には燃料電池トラックの運用コストをディーゼルトラック並みにすること、それが私たちの目標です」。ポッシュはモビリティ用途の燃料電池への投資をさらに増やし、2021 年から 2024 年にかけて約 10 億ユーロを投じる予定です。

2021 年度: 厳しいコスト圧力にもかかわらず課題をクリア

「ポッシュ・グループは 2021 年の課題をうまく乗り越えることができました」とフォーシュナーは総括しました。「売上高は 10.1% 増加し、EBIT を 50% 以上伸ばすことができました」。この数字は、新型コロナウイルスの感染拡大、半導体の継続的な供給不足、すでに著しく上昇していた原材料価格という背景があったにもかかわらず、達成することができました。「好調な売上高に加え、徹底したコスト削減対策が奏功しました」とフォーシュナーは説明します。「将来を見据えたポッシュの姿勢は、事業年度決算の手堅さにも表れています」。ポッシュ・グループの研究開発費は 61 億ユーロ (2020 年: 59 億ユーロ) と安定的に推移し、投資額は 39 億ユーロ (2020 年: 33 億ユーロ) とやや増加しました。研究開発費の重点は、e モビリティ、運転支援システムだけでなく、産業の電動化や空調技術にも及んでいます。自己資本比率は 1.3 ポイント改善し、45.3% となりました。

2021 年度: 事業セクター別の業績

すべての事業部門が好調な業績に貢献しました。最大の売上高を生み出す事業セクターであるモビリティソリューションズは、売上高が前年比 7.6% 増の 453 億ユーロとなりました。為替調整後では 7.9% の増加となります。支払金利前税引前利益 (EBIT) は前年の赤字から一転、若干の黒字となり、支払金利前税引前利益率は 0.7% でした。「モビリティソリューションズは特に半導体供給不足の影響を受けやすく、モビリティの大きな変化に適応していかなくてはなりません」とフォーシュナーは説明します。「同時に、この事業セクターは e モビリティや自動運転に多額の先行投資を行っており、すでに原材料や物流コストの大幅な上昇にも対応しなくてはなりませんでした」。フォーシュナーによると、産業機器テクノロジー事業セクターは、重要な機械工学市場

の回復の恩恵を受け、売上高は 18.9%増の 61 億ユーロとなりました。為替調整後の売上高は 19.4%の増加、支払金利前税引前利益率は 8.4%でした。消費財事業セクターは、好調だった前年から売上高をさらに伸ばし、12.7%増の 210 億ユーロ、為替調整後では 14.4%増となりました。支払金利前税引前利益率は 10.2%と、再び 2 桁を達成しました。エネルギー・ビルディングテクノロジー事業セクターの売上高は 7.8%の増加、為替調整後では 8.8%の増加を達成しました。総売上高 59 億ユーロに対して支払金利前税引前利益率は 5.1%に改善しました。フォーシュナーは、「私たちの気候にやさしい空調技術が、この成功に大きく貢献しました」と述べています。

2021 年度: 地域別の業績¹

ボッシュ・グループは全地域で売上増となりました。ヨーロッパの売上高は 8.9%増の 413 億ユーロ、為替調整後では 10%増となりました。北米の売上高は 6.5%増の 114 億ユーロ、為替調整後では 9.3%増となりました。南米の売上高は 32%増の 14 億ユーロで、為替調整後では 45.1%もの伸びとなりました。アジア太平洋とその他の地域の売上高は 245 億ユーロでした。これは 13.1%の増加で、為替調整後では 11.7%増でした。

2021 年の従業員数: 全地域で増加

2021 年 12 月 31 日時点でボッシュ・グループの従業員数は全世界で 40 万 2,614 人と、前年から 7,580 人の増加となりました。ヨーロッパ、南北アメリカ、アジアの 3 地域すべてで増加しました。ドイツ国内の従業員は 13 万 1,652 人で安定しています。研究開発部門の従業員は 2,949 人増加し、7 万 6,121 人となりました。

報道用画像:

#324716, #1846782, #1846737, #1360997, #718e84c2, #7ce20876

インフォグラフィック:#

c547248e, #826f7210, #df81a2bc

報道関係担当窓口:

コーポレート・事業・財務関連:

Sven Kahn, 電話: +49 711 811-6415, Twitter: @BoschPresse

サステナブルなモビリティ、水電解水素製造

Thorsten Schönfeld, 電話: +49 711 811-43378, Twitter: @BoschPresse

エネルギー・ビルディングテクノロジー、スマートリビング、モノのインターネット化(住宅)

Dörthe Warnk, 電話: +49 711 811-55508, Twitter: @d_warnk

インダストリー4.0、モノのインターネット化(産業):

Dennis Christmann, 電話: +49 711 811-58178, Twitter: @BoschPresse

¹ 四捨五入により、2021 年の総売上高との差が-1 億ユーロ

人事・社会福祉:

Simon Schmitt, 電話: +49 711 811-6478, Twitter: @5imonSchmitt

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2021年の従業員数は約40万2,600人(2021年12月31日現在)、売上高は787億ユーロ(約10.2兆円*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングプロバイダーとして、スマートホーム、インダストリー4.0さらにコネクテッドモビリティに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュは、サステナブル、安全かつ魅力的なモビリティを追求しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループは、AI(人工知能)を搭載する、もしくはAIが開発・製造に関わった製品を提供することで、コネクテッドライフを円滑にすることを戦略目標に掲げています。ボッシュは、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 440 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュは 2020 年第一四半期に、世界 400 超の拠点をカーボンニュートラルを達成しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 128 の拠点で約 7 万 6,100 人の従業員が研究開発に、そのうち約 3.8 万人がソフトウェアエンジニアリングに携わっています。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861~1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の94%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しており、残りの株式はロバート・ボッシュ GmbH および創業家であるボッシュ家が所有する法人が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っています。

*2021年の為替平均レート、1ユーロ=129.8855円で計算

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト(英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス(英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター(ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト(日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター(日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック(日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube(日本語)